# けが越えパリ・パラ狙う

## 陸上短距離・川上秀太選手（アスピカ）世界選手権は欠場

### 母校福井工大からも支援

## 「より責任感持つ」

パラ陸上男子短距離（視覚障害クラス）の川上秀太選手（アスピカ）が、左脚のけがのため、出場予定だった世界選手権（8日開幕・パリ）を欠場する。「悔しさはあるがパワーアップできる期間だと前向きに捉えたい」と切り替え、来年のパリ・パラリンピック出場を目指す。6月には母校の福井工大とアスピカが協定を結び、支援体制が整えられた。「より責任感を持って競技に打ち込みたい」（野田勉）

昨年以降、日本記録やアジア記録を塗り替え、パラ陸上界の新星として注目を集める24歳。今年4月の日本選手権の男子100㍍（視覚障害T13）を制し、初の世界選手権切符をつかんだ。

「調整のため出場した」という6月の大会で、自身の日本記録を上回る10秒80で優勝したが、左太ももの肉離れを負った。競技人生初の経験で、全治約1カ月。「無理せず、来年に向け完治させたい」と世界選手権出場を断念した。

一方、フルタイム勤務の川上選手にとって練習環境面では朗報があった。パラリンピックでのメダル獲得を後押ししようと、福井工大とアスピカが6月に相互協力協定を結んだ。

福井工大陸上部時代は一般の大会で競ってきた川上選手は、社会人となった2021年にパラ陸上に転向。指導は同部監督の内藤景（ひかり）准教授がボランティアで続けていた。協定締結により同大のトレーニング施設が利用でき、専門的指導やトレーニングプログラムの提供、栄養士の助言などが受けられる。

内藤准教授は「お互いの関係性が明確になったのは大きい」と引き続き指導に当たる。「医師の診断や科学的根拠に基づき、選手個人では難しい体の状況に合わせたトレーニング計画を立てたい」とリハビリも全面的にサポートする構えだ。川上選手は「アスピカ、工大の〝顔〟として、責任を強く感じる。自分の活動がより意味のあるものになった」と喜んでいる。

来年5月には神戸市で世界選手権があり、2位以内ならパリ・パラリンピックの日本の出場枠が得られる。川上選手は「けがをしっかり治して出場権を取り、パリ・パラリンピックでメダルを取る」と力強く語った。

福井工大のトレーニング室で内藤准教授（右）から器具の説明を受ける川上選手＝福井市の同大福井キャンパス

福井新聞
© 福井新聞社　無断複製・転載を禁じます